Osaka University Knowledge Archive

Title	懐徳堂研究 第3号 編集後記
Author(s)	
Citation	懐徳堂研究. 2012, 3, p. 246-246
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24636
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

編集後記

懐徳堂研究センターが新たに発足してから三年目に入った。その間、各種デジタルコンテンツの制作、受託資料の調査、目録作成、懐徳堂展、ホームページの一新など、精力的に事業を展開してきたが、この『懐徳堂研究』も三号目となり、その充実度を増している。

本号で注目されるのは次のような点である。第一は、江戸時代の懐徳堂から近代の懐徳堂まで、また、広く日本学や大阪学に関わる論考が十二本も寄せられたことである。本誌が一定の認知を得たと自己評価して良いであろう。いわゆる論文とともに、新発見の資料に関する注目すべき論考、丹念な翻刻作業など多彩な内容となった。

第二は、外国からの投稿が多数あったという点である。いずれも台湾の研究者からの力作であったが、内一本は中国語での掲載となった。本センターに余力があれば、これを日本語に翻訳することもできたのであるが、今回はそのままとした。いずれにしても、本誌が国際的な研究の場となりつつあることを示しているであろう。

この勢いを継続して、次の第四号にも多くの論考が寄せられることを期待したい。

（懐徳堂研究センター長　文学研究科教授　湯浅邦弘）

【訂正】『懐徳堂研究』第2号（平成二十三年二月）掲載の湯城吉信「『環湖帖』の旅を訪ねる」（17頁、写真2）

（誤）「湖岸から突き出した部分が唐崎」

←

（正）「湖岸から突き出した部分は柳が崎。唐崎は更に左（北）にある。」

※ご教示いただきました辻本雅史先生に御礼申し上げます。

（湯城記）